

All Together

JKDGC Newsletter

Vol. 04

—Autumn 2023—



検体収集状況

参加施設数



43 施設

検体回収数
2023年7月～
2023年9月



52

検体回収 総数
2023年
9月現在



3022

ご協力ありがとうございます！

3,000検体突破！

●川崎病遺伝コンソーシアム (JKDGC) 研究事務局●

国立成育医療研究センター臨床研究センター データサイエンス部門
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

E-mail jkdgcoffice@gmail.com

★ホームページ・X（旧Twitter）もぜひ、ご活用ください！

<https://jkdgc.jp>



@jkdgc_pr



News & Topics

★ ご報告 研究成果を第43回日本川崎病学会にて発表しました

9月30日・10月1日に国立循環器病研究センターで開催された第43回日本川崎病学会学術集会（会長：津田悦子先生）にて、演題「免疫グロブリン・プレドニゾロン初期併用療法不応例における探索的ゲノムワイド解析」を発表しました。この研究では川崎病遺伝コンソーシアムで収集いただいた検体・臨床情報を用いて解析しています。皆様から沢山のご協力いただいているプロジェクトですので、これからも研究成果として患者様、先生方に貢献できるよう努めて参ります。

【概要】IVIG + PSL初期強化療法を受けた川崎病症例について治療効果に関する複数アウトカムの遺伝的リスク要因についてGWASを実施しました。今回の解析ではゲノムワイド基準を満たす関連を示すSNPは認められませんが、各アウトカムにおいて、複数の遺伝子領域に関連の傾向がみられました。今回みられた候補領域に加え、川崎病の既報感受性遺伝子座との関連を検討するなどの検討を重ねていきたいと考えています。

川崎病遺伝コンソーシアムで収集したDNA試料、臨床情報を用いて研究を行いたい研究者の方(Data Provider)のご相談も受け付けております。事務局までお問い合わせください！

※研究の実施にあたっては、JKDGC運営委員の承認が必要となります。

★ JKDGC リレーコラム



日頃から、JKDGCの検体収集やプロジェクト運営においてたくさんのご協力をいただいている先生方をリレー形式でご紹介していくリレーコラムです。

今回は、埼玉医科大学病院小児科の荒尾正人先生にご登場いただきました！

当初からこの研究に参加させていただき、当施設では川崎病入院患者に対して、ほぼ全例にわたり説明を行い、可能な限り検体の採取・提出を進めてまいりました。私自身は川崎病の専門家ではありませんが、一小児科医として多くの川崎病患者の診療を行う中で、「川崎病の原因は何なの？」「何でうちの子は免疫グロブリンが効きづらかったの？」という患者家族からの疑問を多く受けます。

今回で3000検体を突破されたようで、当施設も検体提供に貢献できたことを誇りに感じております。同時に、一日でも早く現場の子どもたちに還元されるよう、本研究が今後とも発展されていくことを切に願っております。

今後とも本研究への参加協力を続け、子どもたちとその家族に対してより良い診療や情報提供ができるよう努めてまいりたいと考えております。

〔ご寄稿：埼玉医科大学病院 小児科 荒尾正人先生〕

